



ハトダヨ
2021年
10月号

函館市中央図書館

編集・発行

函館市中央図書館 指定管理者
図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体

TEL 35-5500 FAX 35-5525

函館市中央図書館だより

第65号 令和3年10月1日 発行

予約 ランキング

予約数の多い本ランキングを紹介
します。こちらを参考に読みたい
本を探すのも一つの方法です。

令和3年9月1日現在、予約回数が多かった本をご案内しています。

- | | | |
|----|-------------|------------|
| 1 | 白鳥とコウモリ | 東野 圭吾／著 |
| 2 | 52ヘルツのクジラたち | 町田 そのこ／著 |
| 3 | 小説8050 | 林 真理子／著 |
| 4 | にぎやかな楽日 | 朝倉 かすみ／著 |
| 5 | 魂手形 | 宮部 みゆき／著 |
| 6 | オムニバス | 誉田 哲也／著 |
| 7 | 琥珀の夏 | 辻村 深月／著 |
| 8 | クララとお日さま | カズオ・イシグロ／著 |
| 9 | ドキュメント | 湊 かなえ／著 |
| 10 | 疼くひと | 松井 久子／著 |

図書館俳句ポスト受賞者

6月に図書館俳句ポストへ応募された中から
選ばれた作品です。お題は「蝸牛」。

入選

紫陽花の坂を下れば乳母車
動物園吾子の関心蟻ばかり
立待岬へ今朝も掌合はず根崎より

佳作

白玉や白寿の母の喉仏
炭住の跡やルピナスあちこちに
初めての浴衣といつももの運動靴
蝸牛這いゆく先の臥牛山

中野 良子
小野寺 礼子
舂目 向風

田川 管子
練合 陽子
小野寺 礼子
村田 真希



入場無料
出入り自由

令和3年度 読書週間イベント

図書館員のブックトーク

Book talk Vol.7

2021.10/30 (土)

14:00~15:00 (13:30開場)

函館市中央図書館 2階 大研修室

定員 32名

※定員に達した場合、入場をお断りする場合があります。

お問合せ：函館市中央図書館
企画担当 ☎35-5500

ハトダヨにしか
載っていない!

ぜひ読んでみてください!

スタッフのおすすめ本

湯川図書室
請求記号：723.3 テト

タイトル：「**デトロイト美術館展**」

監修：千足 伸行 出版社：産経新聞社 (2016年)

原田マハさんの小説は読んだあとに関連の美術本を合わせて読むととっても面白いのですが、『デトロイト美術館の奇跡』は関連本の所蔵がなかったため残念に思っていました。ところが、嬉しいことに今年に入ってからこの本が寄贈本として湯川図書室にやって来たのです。展覧会用のカタログですので、小説に出てきた作品はもちろん他の所蔵品もたっぷり鑑賞でき、美術館の建物の様子やデトロイターとしての誇りを持つ美術館関係者のお話などもあり大満足の内容でした。ぜひ、小説と合わせてお楽しみください。

棚：児 7-10
請求記号：E ファ

タイトル：「**かわにくまがおっこちた**」

著者：リチャード・T. モリス 絵：レウィン・ファムB 出版社：岩崎書店 (2019年8月)

コロナ禍で思うように遊びに行くこともできない今、わくわくするような冒険に連れて行ってくれる絵本を見つけました。

ある日川に落っこちたクマは丸太ごと流されて、途中でいろんな仲間と道連れになり、川をどんどん下っていきます。ゆっくり始まり、徐々に加速していくスリル満点の展開は、まさに読むジェットコースター! 最後は笑って、とても爽快な気分になりました。

ふだんはべつべつに生きているけれど、実はみんな1本の川でつながっているという、大切なメッセージもこめられた素敵な1冊です。

湯川図書室
請求記号：914.6 ホシ

タイトル：「**ないようである、
かもしれない**」

著者：星野 概念 出版社：ミシマ社 (2021年2月)

出版社のウェブ連載をまとめた著者のデビュー作。

心の揺れ・場の空気感・誰かの意外な一面に、菌やウイルス、漢方薬から音楽まで。プロフィールには精神科医 などと紹介されている星野さんの、活動範囲の広さをうかがわせる多岐にわたるエピソード。ここに共通するのは、タイトルにもなっている「ないようである」という独特な視点。「ない」でもなく「ある」とも言い切れない、味の決め手のようなもの。そこにピントを合わせ、日々を面白がっている様子がとても楽しいエッセイです。

軽やかに、あえて曖昧なまま、まとまらないままに表現した、という文章に心がほぐれます。

小路幸也氏講演会

10/2(土)

14:00 開演

事前申込終了しています

演題：「物語を
楽しむために」

広瀬克也氏講演会

10/7(木)

13:30 開演

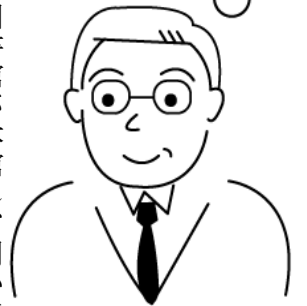
演題：「ぼくと妖怪絵本」

9月は緊急事態宣言で、北海道内の多くの図書館が休館し、開いている方が珍しいくらいでした。その中函館は開館を続けましたが、函館での感染者数が増加してしまいましたから、職員一同毎日通常業務に加えて感染対策を行っています。コロナ禍での開館は神経を使いますが、利用者の皆さんの協力がなければ開館を続けることはできません。館内でのマスク着用徹底をお願いします。

10月から11月にかけては、講演会などの事業も数多く予定しています。読書週間があり、例年読書の秋はたくさん本を読んでもらうように工夫をしています。今年も恒例となった作家の講演で、「東京バンドワゴン」をはじめとする人気作品を次々に出している小路幸也さんにお越し願います。今年は要望の多かった絵本作家の講演会もあります。妖怪の絵本で人気の広瀬克也さんにも来ていただけたらいいなと思っています。

作家の話聞くことが出来ると、作品が生まれた背景が明かされることがあります。意外なきっかけで書かれることが多いです。随分前ですが、児童文学者の大石真さんは、喫茶店に数人の小学生が入ってきてシークリームだけを大急ぎで食べて出て行ったのを見て、代表作となった「チョコレート戦争」を書いたと話されました。チョコレート戦争にそんな場面はありませんが、お菓子屋さんを舞台にした話を思いついたのでしよう。朝食かすみさんは、手稲駅に降りた時火事に遭遇し、消防士たちが「〇〇はまだ来ていないのか、〇〇はまだか」と叫んでいる光景を見て、ベストセラーになった「田村はまだか」となったそうです。この作品にも火事の場面はありません。作家は、ちよつとしたことからインスピレーションを得ているようです。

館長随想 (六五)



デジタル資料館 紹介



雨の七五三 (ph004018)

七五三詣は本来11月15日の行事ですが、冬の訪れが早い道内では10月にお参りする姿が多く見られます。昭和22年に函館市内の神社が11月3日に繰り上げ、26年からは全道いっせいに1ヵ月繰り上げて10月15日に行われることになりました。

(参考：北海道新聞 昭和22年11月4日、昭和26年10月18日)

版画 絵本作家 手島圭三郎さん

北海道出身の版画 絵本作家 手島圭三郎さんのオススメ絵本を紹介します。

《プロフィール》 手島 圭三郎さん（てじま けいざぶろう）

1935年紋別市生まれ、江別市在住。北海道学芸大学卒業後20年にわたり教員を務めた後に版画作家として独立。北海道の自然や動植物を題材に木版画による絵本を製作し、日本だけでなく世界から高い評価を得ています。今年で引退することを決められ、自身40冊目の『きたきつねとはるのいのち』を4月に出版されました。

『きたきつねとはるのいのち』



手島 圭三郎／絵・文
絵本塾出版
2021年4月出版
請求記号：E テシ
棚：児童3～6

今年4月に刊行された手島さん40冊目の作品です。まだ深い雪で覆われた北海道の3月、きたきつねのおすは生まれた子どものために食べ物を探しにでかけます。そこで見た他の動物たちの様子、厳しい冬を生き抜いた動物たちの喜びが描かれています。

『カムイチカプ』



藤村 久和／文
手島 圭三郎／絵
絵本塾出版
2010年5月出版
請求記号：E テシ
棚：児童3～6

アイヌ文化の伝承者である故・四宅ヤエさんが語ったアイヌ・ユーカラ（叙事詩）を描いた、カムイ・ユーカラシリーズ（全5巻）の第1作。「カムイチカプ」とは、アイヌ語で「神の鳥」、シマフクロウのことを意味します。この作品は村を見守っているシマフクロウの神と海を渡るシャチの一族とのお話が、迫力のある絵で見事に表現されています。

《 原 画 展 の お 知 ら せ 》

10月30日（土）～ 11月22日（月）まで、函館市中央図書館1階・児童コーナーにて、『きたきつねとはるのいのち』の原画展を開催いたします。ぜひご来館ください。

また、児童コーナーには、手島さんの版画や絵本があります。そちらもぜひご覧ください。